

## 人間関係の基本は 思いやりの心 協和の心です

「人間は社会的な動物である」と古人が言っています。

人は、一人では生きられず、誰かと交わり、誰かとともに過ごさなければ生きては行けないものです。周りに誰かがいないと自分がどんなものであるのか、どんな人間であるのかどうかも分からないと思われます。

私たちが、最初に出会う人間は親です。親のもとで、愛情に包まれて育てられます。育てられる中で、人間としての心を学んで行きます。言葉や動作の仕方を学ぶ過程で心の持ち方を、親の姿をまねて学びます。人として、やるべきこと、やってはいけないこと、礼儀作法や考え方を含めて、躰として学習し、身に付けます。

成長するに従って、親や家族以外の人間との交わり、社会との接点が広がって行き、家庭とは異なった世界を知り、心も広がって行きます。他人との交わりの中で、社会の仕組みや在り方を学んで行きます。家庭とは違った事と接すると、多くの不安や戸惑いを感じ、親と家族の指導と援助を受け、教えられながら成長します。

人と接する上で大切なことは何か、についても学びます。時には、傷つけ傷つけられながら成長します。成長する過程では、苦しみ悩むことも大切です。他の心を傷つけ、他から傷つけられることも、心の成長のためには必要なことです。

このようなことの繰り返しの中から、人間関係の在り方を学びます。周りの人に対する「思いやりの心」や「心配り」の大切さを知ります。

しかし、自分の「思いやりの心」が、他の人の「思いやりの心」として返ってこないこともあります。また、自分の意図とは違った意味で理解されたり、誤解されたりすることもあることを知ります。社会には、さまざまな人がいて、さまざまな考えや行いのあることを知り成長します。

十分な社会性が身につかないまま社会に出ると、人と上手に交わることが出来なくなります。独り立ちが出来ない人になってしまいます。人は、成長過程で、必要なときに必要なことを教えられ、学んで成長することが大切です。その基本は、思いやりの心 協和の心です。

